

出雲市 奥井美治氏提供 三瓶山 火口湖 室の内池

# 不屈

2021年6月

No.324号

治安維持法国際同盟

島根県本部

〒693-0033

出雲市知井宮

町750-2

小玉信恵

☎・ファックス

0853-23-3829

## 6月度の県幹事会で話されたこと（6月5日）

＊署名の全県最終合計 1903筆（5月1日に中央本部へ送付済み1557筆と、連休後に益田の346筆が直接中央に送られた合計）。

## ＊今後の活動について

○ コロナと総選挙の時期など不透明な状況があるが、「8月21日（土）13時30分、出雲駅前ビッグハートにて県国賠同盟総会開催」を予定する。（8月という根拠のひとつに署名活動の期間を9月から開始し翌3月末を締めとする意味もある。）

○ 県同盟設立30周年記念行事・「大田で」を検討してきたが、コロナの状況とあわせ、来年の4月には大田の選挙も控えており、一旦コロナの収束を待って改めて立案することとなった。

○ 市民と野党の共同が前進するための同盟の活動。の第一弾としての今年8月15日の中央のビラの扱いについて。来月具体化する。

○ 中央本部が提起している。「署名だけでなく、市民と野党の共同が前進する政治闘争に連動した活動」の第二弾として。今年9月の総会直後の9月あたりに大田市に同盟が全県から6名程度一日支援に入り、現地の方と共に活動してはどうかと話あわれた。

○ 各支部とも「次世代への活動の継承」という課題で意識的な取り組みが見えない。また「支部の役員会の確立」でも多くの支部で課題が散見される。この問題を時期総会で各支部が立案を持って参加することとした。(参加幹事7名)

真宗大谷派僧侶、口蓮宗・僧侶尾藤謙朗(満州軍務勲章の1931年「戦争は最大の不幸だ」「仏教は人類教その本領の教えに帰って戦争を批判すべきである」と主張。

1938年治安維持法容疑違反で逮捕された。1940年日本共産党に入党、真宗大谷派僧侶・植木徹男(植木等の父)1938年水平社・部落解放運動、治安維持法違反容疑で逮捕された。戦後いち早く日本共産党に入党。らはカンカンに怒ったに違いない。それでも49カ寺の内8カ寺が賛同の意を表明。快諾していただきました。

そのお寺は、浄土真宗本願寺派の安養寺、西栗寺、桂正寺、得台寺、妙壽寺、勝龍寺の6カ寺、真宗大谷派では極楽寺、専龍寺の2カ寺です。内4カ寺から感想文の依頼に回答していただきました。浜田市赤松町長安本郷の勝龍寺の住職・紀貫(きのみつと)は「釈尊親鸞の教えに背き、先の侵略戦争に協力しました。悔悛の念をいっしょにいっしょ」と電話で反省の弁を述べてくれました。

こうした宗教者の反戦・平和の言に後押しされて6月の署名に結果しました。来年度は真宗大谷派にも大きく対象を振り、1000の大台を超えたいものだと思います。2020年度の合計は7600後二つで8000に届く予定です。

(記・令和二年六月初旬)

### 【新たな地平切り拓く宗教者との対話・協力・共同】

益田・唐生支部 支部長 城市昇

私は、2010年以来「平和、民主主義、日本国憲法を守る社会的ユニーマイズム」などの一致点での連合傘下の労働組合や社民党、日本共産党などと、国会議員署名なども集めてきました。その成果が最も大きく実ったのは、2018年の署名数1886で正味人口比2.6%でした。昨年以來今年もコロナ禍に苦戦しましたが、今年程血の滲む苦力は初めての経験でした。昨年に比べてわずか300の減少にとどまったのは、協力の対象を宗教者まで拡げた結果です。

川本義昭住職・西栗寺(服部之総の生家・浜田市旭町の正蓮寺と姻戚関係あり)から名簿の提供でお世話になりました。最初の協力依頼の文書を送った浄土真宗本願寺派(西本願寺)と真宗大谷派(東本願寺)は64カ寺内蔵寺が10カ寺、電話が使用されていないお寺が5カ寺ありました。浄土真宗本願寺派の反応は

『私たちは政治色のあるものは「遠慮したい」との圧倒的な声でした。私は余りにも保守的態度に憤然。こうした態度に、反戦僧・竹中彰元(日中戦争が始まった1937年「戦争は罪悪である」と戦争の本質を見抜き、身をもって戦争に反対した

### 川柳と短歌

小玉 信江

資本主義 「限界」広がる 声の数

言葉では 言えぬ色合い 絵手紙で

今日一日の 幸(さち)に 感謝を

握りしめ 握りしめても 隙間から

命こぼれる 辛さいつまで

(コロナと戦う神戸の 訪問看護師によせて)

(追記・・・皆さんから「心配いただいております。現在は自宅にて静養しております。」)

（既報のように、益田の城市氏は浄土真宗の寺へ同盟の署名の依頼をされ、幾つものお寺から協力を頂くという全国的にも注目される活動がありました。そのうち何人かの住職から、城市氏を通して不屈出版の編集部よりの依頼に応じて手記が寄せられましたので一部を紹介します。）

【益田・真龍寺の住職から寄せられた手記】

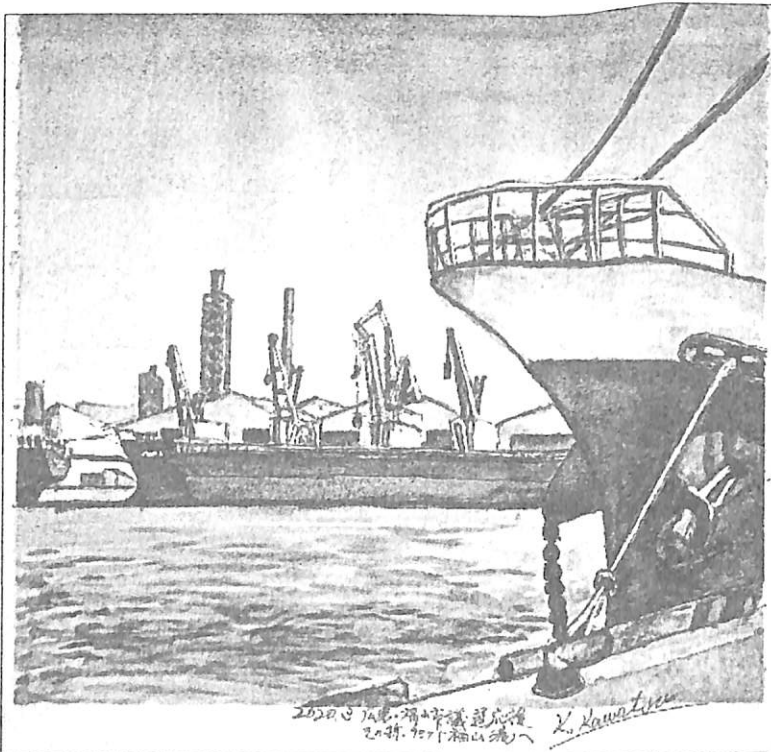
真宗大谷派（東本願寺）は、1965年には宗議会・参議会による「不戦決議」という非戦の誓いを表明しています。それは、日清戦争・日露戦争へ、そして太平洋戦争へと、戦争のたびに教団として全面協力してきたことへの懺悔でした。一方で教団の中にも、門徒とともに生き、投獄されたものもいました。

幸徳秋水ほか当時社会主義者と呼ばれた人を逮捕し、天皇暗殺を企てたとして死刑や無期懲役になった大逆事件連座者にも一人の東本願寺の僧侶がいました。和歌山県新宮市で住職をしていた、高木顕明（ひんみょう）です。彼は当時、住職として生きる中で、日露戦争に反対したり、遊郭の設置に反対したりしましたが、それも門徒の生活の美態のうえでの反対でした。しかしながら天皇暗殺の嫌疑がかけられ、死刑判決後に無期懲役になり秋田監獄で亡くなっていました。全くの無実であり、社会主義者弾圧の一環でした。

大逆事件は旧刑法のものであり、現在も有罪のままです。大谷派は90年以上にわたり、僧籍を剥奪したままですが、現在は処分を取り消しを行いました。親鸞聖人の御教えのみを

大切に、引き継がれてきたなか、現代社会の中であえぎ生きてきた人の姿があると思っています。戦争に反対する者、しない者、反対したくてもできない者、様々な立場で生きているのは今も当時も変わらぬように思います。だからこそ、今、反対賛成のふたつにとどまらず、念仏に御縁のあるものが教団の歴史を学び、同じ道をたどらぬよう、教えに生きる生活をひとりの人生の中で生きていくほかないと思っています。

益田市津田 真宗大谷派・真龍寺 住職 前田賢龍



安来市 河津清氏提供 福山港にて